

# 多賀城市からのお知らせ

送付枚数（送り状含む） 1 枚

## 台湾から被災地へ消防車寄贈 「未希号」多賀城消防署に配備

平成24年3月29日  
多賀城市総務部地域コミュニティ課  
広報広聴係  
368-1141 内線 255

昨年5月、台湾の企業3社から宮城県内沿岸4地区の消防本部に消防車と救急車が寄贈されました。

そのうち、塩釜地区消防事務組合に寄贈された消防車が、3月26日多賀城消防署に配備されましたので、取材方よろしくお願いいたします。

### 記

○車 両：消防ポンプ車1台（3,000万円相当）

○配備先：多賀城消防署

※車両には、津波からの避難を呼びかけ続けたために亡くなった南三陸町職員・遠藤未希さんにちなんで、「未希号」と銘板が掲げられています。寄贈の仲介役となった早川さんが多賀城市内で会社勤めをされていた経験がある縁で、このたびの配備となりました。

■このことについての問い合わせは・・・

多賀城消防署

TEL 366-0177

3/29 10:45 FAX済

# 台湾企業が消防車贈呈 被災地に救急車含め5台

宮城県は、被災者への義援金について、死亡・行方不明者1人当たり計50万円、住宅の全壊世帯に計45万円、半壊世帯に計20万～25万円をそれぞれ支給することを決めている。

〈宮城〉台湾の民間企業3社が東日本大震災で被災した石巻地区広域行政事務組合などに、消防車3台と救急車2台を贈った。消防車は防災放送で避難を呼びかけ津波にのまれて亡くなった南三陸町職員、遠藤希希さんになみ「未希号」、救急車は中国人研修生を避難させて犠牲になった女川町の会社役員、佐藤充さんから「みつる号」と名付けられた。贈ったのは、ベビーカー製造「眞新企業集団」(胡栄財社長)、コンピュータケース製造「可成科技股

份有限公司」(洪水樹社長)など。台湾で工場改革のコンサルタントを務めるソニー出身の早川雄之助さんが仲介した。寄贈先は、石巻地区広域行政事務組合に消防車と救急車を各1台、塩釜地区消防事務組合に消防車1台、気仙沼・本宮地区広域行政事務組合に消防車1台、亘理地区行政事務組合に救急車1台。洪さんは寄贈者を代表し「微力だが、台湾人も復興を応援していることを知ってほしくてやってきた。日本人は賢明で努力家だから、きっと早く立ち直ると信じている」と話した。

## 義援金の対象拡大

〈宮城〉県は、東日本大震災で家族が死亡、または行方不明となった遺族らに支払う義援金の支給対象者を拡大することを決め、各市町村に運達した。新たに対象となったのは、犠牲者の兄弟姉妹、おい、めい。いない場合は、おじ、おば、いとこらに支給することも併せて決めた。住宅被害に対する義援金についても、世帯主が死亡、または行方不明の場合、同じ対応とする。県は犠牲者の配偶者、子、父母、孫、祖父母に対象を限定。遺族らから批判が出ている。

仕事に ..... 「阪神大震災が発生しても 戸したと聞い」 被災者への義援金 〇〇〇万円相当)を贈った。 被災地復興に役立てて

5/25 河北

## 沿岸4本部に贈 消防車両寄贈

台湾の会社経営者ら

震災被災地の復興に役立てて

立ち上るおとよ、台湾の人の命を守り、自らは会社経営者ら5人が24犠牲になった女川町の会社役員、佐藤充さん(55)と南三陸町職員遠藤希希さん(24)の名が付けられた。救急車は佐藤さんの名前から「みつる号」、消防車は「未希号」と命名された。

経営者側の意向で、各名車両後部に金鷹翼が

シートが付けられる。感謝の言葉を述べた。県庁であった贈呈式。式後、洪さんは「未希は未来に希望がある」という意味がある。復旧「台湾人の支援の気持ちに向け、明るい希望を持ってほしい」と話した。今回の震災で県内では、沿岸部を中心に消防本部の星三郎消防長は、沿岸部を中心に消防力の向上につながる。救急車の計4台が被災する大いに活用したい」と運行不能になった。

## 1 経緯

- 台湾で経営コンサルタントをしている早川氏に、関与先である寄贈主から相談された。
- 早川氏は元ソニー社員で、多賀城にも勤務経験あり。元同僚である高橋氏に相談し、高橋氏⇒新産業振興課⇒消防課と伝達された。

## 2 寄贈理由

- 台湾では災害の状況が報道されている。中でも2つのエピソードが大きく取り上げられ、このエピソードに感銘を受け、復旧に役立つであろう車両の寄贈を考えたとの事。
  - ①女川町役場職員<sup>の三階</sup>の遠藤美希様が、防災行政無線を通じて住民への避難を呼びかけ続けたために逃げ遅れ、津波により行方不明（後に遺体が発見）になった。
  - ②女川町の佐藤水産専務 佐藤充様が会社に在籍した中国人研修生の避難を優先し安全な場所に誘導した後、家族を探すため町に戻り行方不明になった。
- 2名の名を後世に残すよう、寄贈する車両に消防ポンプ車には「美希号」、救急車には「みつる号」と命名することを希望している。

## 3 消防ポンプ自動車、救急自動車を寄贈したいと考えた理由（早川氏談）

- これらの車両が被害にあっていることを知った。
- これらの車両を寄付することにより、地域の復旧に役立つと考えた。
- 車両の色である赤と白は日の丸を連想し、日本の象徴であると感じた。

百四、石を

財産の取得について

1 物件名「救助工作車Ⅱ型」

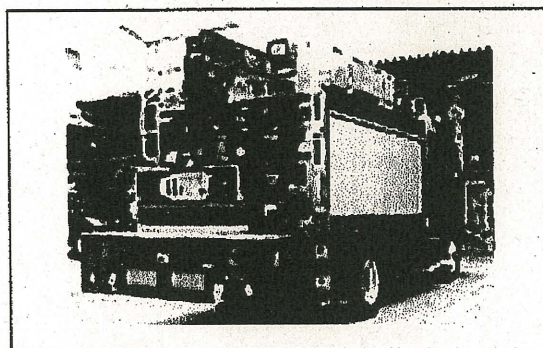
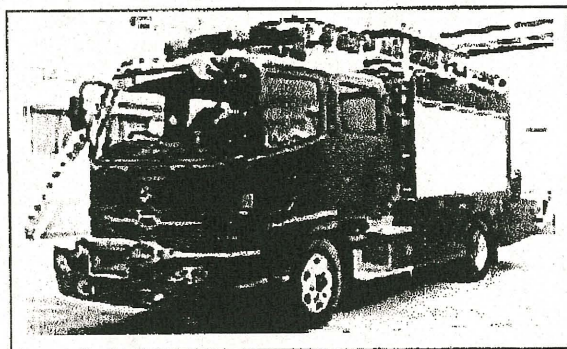
(1) 内 容 現在多賀城消防署に配置されている救助工作車は、平成12年度に購入してから11年が経過していたものであるが、3月11日発生した東日本大震災による津波広報中に渋滞に巻き込まれ、津波により水没し使用不能となったものである。複雑多様化する傾向にある災害等の救助活動に的確に対処するため更新整備を行い、消防力のより一層の充実強化を図るものである。

(2) 車両概要 ① シャシー

- ・4×4輪駆動方式消防専用シャシー低床式
- ・エンジン出力 210ps以上
- ・最大積載量 5.5トン超級

② 艙装

- ・フロントウインチ装置 ・クレーン装置
- ・屋上上昇式発電照明装置 ・高圧油圧発生装置



(3) 取得金額

69,247,500円

車両価格 65,950,000円

消費税 3,297,500円

2 契約関係

(1) 契約方法

指名競争入札

(2) 入札参加業者

当組合指名競争入札参加資格登録業者 4社

- ・株式会社モリタ仙台支店
- ・日本機械工業株式会社仙台営業所
- ・ジーエムいちほら工業株式会社仙台営業所
- ・日本ドライケミカル株式会社東北支店

(3) 契約業者

仙台市宮城野区萩野町3丁目8-55  
株式会社モリタ仙台支店

(4) 契約年月日

仮契約 平成23年8月8日

(本契約は、平成23年第3回組合議会定例会議決日)

(5) 納入期限

平成24年3月23日

財産の取得について

1 物件名「消防ポンプ自動車CD-1型」 (多賀城23車)

(1) 内容 現在多賀城消防署に配置されている消防ポンプ自動車は、平成9年度に購入してから14年が経過し、各部の腐食・老朽化が著しいため、また、今回の東日本大震災において、台湾の実業家から多賀城署に消防車1台寄贈したいという申し入れにより、当組合第10期5ヵ年計画に基づき更新整備を行うものである。火災活動だけではなく、地震等の自然災害、増発する交通事故救助支援等に対応できる多機能型消防ポンプ車を導入し、消防力のより一層の充実強化を図るものである。

(2) 車両概要 ① シャシー

- ・4輪駆動方式ダブルキャブ消防専用
- ・エンジン出力 150ps以上
- ・最大積載量 3トン級

② 機装

- ・高圧二段バランスタービンポンプ (A-2級)
- ・救助資機材収納 ・照明装置



(3) 取得金額

29,977,500円  
 車両価格 28,550,000円  
 消費税 1,427,500円

2 契約関係

- (1) 契約方法 指名競争入札
- (2) 入札参加業者 当組合指名競争入札参加資格登録業者 4社  
 ・株式会社モリタ仙台支店  
 ・日本機械工業株式会社仙台営業所  
 ・ジーエムいちほら工業株式会社仙台営業所  
 ・日本ドライケミカル株式会社東北支店
- (3) 契約業者 仙台市青葉区中江1丁目3-4  
 ジーエムいちほら工業株式会社仙台営業所
- (4) 契約年月日 仮契約 平成23年8月8日  
 (本契約は、平成23年第3回組合議会定例会議決日)
- (5) 納入期限 平成24年3月23日

一“台湾から消防車を東北へ 2011”プログラムー 3/5

宮城県：《塩釜地区消防事務組合消防本部様へ》

消防車：1台を贈ります。

“未希号” 日本の友人  
 可成科技(台湾)より  
 20011年5月 寄贈

車取付  
 銘板

台湾ドル10,600,000(約3000万円)